

第六期長期計画・調整計画策定委員会 傍聴者アンケート
第 18 回実施分（令和 5 年 8 月 17 日開催） 自由記載欄
【傍聴者 会場 4 名・オンライン 17 名】

○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。（傍聴者 3 名記載）

- ・ 学校改築については、委員の意見に賛同しました。委員が仰る大前提の部分が大事で、そこを丁寧に示していただかないと判断が難しいと思います。
- ・ 「教員の多忙化解消」等、策定委員会で議論されていることに対して、現場の教員がどの程度認識しているのか、忙しすぎてタコつぼになってしまっている気がします。
是非、市職員だけでなく、学校の教職員にも（MSIS 校支援などを活用して）計画（案）が示されて、パブリックコメントが出せるように周知してもらえればと思います。
- ・ 元号と西暦が併記されているとわかりやすくなりありがたいです。元号だけというのが一番困る。
- ・ 「養育困難家庭に対する支援」がしっかり書かれたのはよい事だと思います。
- ・ 「インクルーシブ教育システム」を残して「インクルーシブ教育」を削るとは何たるチョイス…武蔵野市はインクルーシブ教育を目指さないのかとガッカリしました。以前にも意見を寄せましたが、「インクルーシブ教育システム」を充実しても「インクルーシブ教育」にはならない。むしろ「インクルーシブ教育」（=同じ場で学ぶ）を目指さない言い訳に使われるだけです。
- ・ 「インクルーシブ教育システム」は分離教育前提だが、「インクルーシブ教育」は同じ場で学ぶ事と分離して学ぶ事どちらも選べる。
- ・ 武蔵野市の目指す「インクルーシブ教育」について、ぜひ計画案にも書いてほしいです。自分の知る範囲で恐縮ですが現場の教員はインクルーシブ教育を推進することに非常に消極的なように見えます（業務多忙や人手不足など同情する点があったとしても、残念ながら消極的だと感じます）。武蔵野市として目指すところを明らかにして、目標設定してほしい。
- ・ 委員の一部から、市内在住の小中学生が私立ないし都立／国立に進学する比率が高いことを踏まえて、市立義務教育校の教育面での充実を図り、入学者数が増えることが望ましい旨の発言がありましたが、武蔵野市には、評価も高く、それぞれの歴史を歩んできた、私立の小中学校が複数存在していること、また、そのこと自体武蔵野市の住民にとって、武蔵野市の教育環境の豊かさと多様性を醸成している事実にも、目を向けてほしいと感じました。たとえば、「インクルーシブ教育」の取り組みひとつとっても、市民の立場からすれば、私立学校の存在意義は自明かと思います。

○ その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。 (傍聴者3名記載)

- ・ 最終の調整、本当に大変だと思います。お盆の時期に、細かく検討してくださっている委員の皆様や事務局の皆様に心から敬意を表します。
- ・ 今更ですが、42 ページの 19 行目「また、特色ある教育活動を推進していくために、東京都教育委員会の制度を利用した学校単位での教員公募を実施する。」は唐突な文章のような気がします。学校単位で教員公募をする必要性が疑問で、副校長の事務負担が一層増すような気がします、その点は事務局はどう考えているのでしょうか。
- ・ 子どもからのパブリックコメント。動画は良いと思いますが、子ども達からも多くの意見が出るよう期待しています。
- ・ 策定委員会の議論が毎回とても勉強になっています。ありがとうございます。
- ・ 二中・六中の議論でも出てきたが、教育分野において「武蔵野市ならでは」は他分野に比べたしかに少ないと思います。武蔵野市としてどんな教育理念を持っているのか、その先にどのような学校教育・学校経営があるのか。そこが明らかにされれば、学校関係者や市民が二中・六中統合の可否を検討する助けになるのではないのでしょうか。逆に、武蔵野市の教育理念が明らかにならないままなら、財政面やハード(施設)の都合、または地域や個人の思いなど、「教育面を第一に」とはいえない議論に引っ張られてしまうのではないかと心配です。
- ・ 給食費無償化、ここまで文章を変える可能性について語られるという事は、ついに武蔵野市も…！と期待大です(笑)
- ・ 市民ワークショップや中高生ワークショップの「主な意見」と計画案の関連ページを紐づけされているのは、WS の成果がわかりやすく示されていて非常に良いと思います。できれば参加者全員にもこの事を知らせてほしいです。市報等でもしっかりアピールすべき好事例だと思います。
- ・ 最後の最後になって、事務局の方から、給食無償化の問題が、緊急性の高い重点施策となりつつある旨、示唆があり、正直、驚きました。国の政策の方針転換が、内々に示唆されている・・・ということなののでしょうか？たとえば将来的に、標準規模を超える学校統合を進めると同時に、入学者数の拡充策＝ソフト・ハード両面における教育への投資拡大を推進した場合、現在の武蔵野市の学校給食の高いクオリティを保ちつつ、給食の無償化を進めることができるのだろうか・・・と、思います。拙速な人気取りの政策ではなく、本来の給食の目的を見失うことなく、世界大の食糧／エネルギー供給の趨勢も考慮しつつ、多様な施策の検討を行った上で、持続可能な政策を見出すことができるよう、文言を整えていただきたいと思います。

- ・ 自治体の環境政策の政策目標に「ゼロ・カーボン」を掲げることの不合理性、また、政策理念として掲げること自体にも無理があるという指摘、その通りだと思いました。

※文字及び文章はできる限りアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。
また、委員名については削除しています。